

キャラクター名  
梶子 睦月

プレイヤー名

シンドローム	ブラックドッグ ノイマン		ワークス	フリーター	カヴァー	喫茶店店員
	オプション		年齢	18	性別	女
覚醒	素体	衝動	殺戮	初期侵食率	45	%
出自	待ち望まれた子	経験	一匹狼	邂逅	同行者	

	基本値	ワークス	ボーナス	成長	他修正	能力値	HP	55
肉体	2	1	0			3	行動値	6
感覚	1	0	0			1	(非装備時)	6
精神	4	0	0			4	戦闘移動	11
社会	1	0	0			1	全力移動	22

肉体			感覚			精神			社会		
技能	SL	修正	技能	SL	修正	技能	SL	修正	技能	SL	修正
白兵	9	10	射撃			RC			交渉		
回避			知覚			意志	4		調達		
運転:乗用車	2		芸術:写真	7		知識:ピリヤード	7		情報:ウェブ	2	
運転:			芸術:			知識:接客	6		情報:UGN	3	
運転:			芸術:			知識:			情報:		
運転:			芸術:			知識:			情報:		
運転:			芸術:			知識:			情報:		

武器・コンボ	能力	命中値	G値	攻撃力	射程	メモ
		0				

防具	価格	装甲	回避	行動	メモ

所持品	
バトルマニユーバ	
アドバンスドゴーグル	

合計装甲: 0    合計回避: 0

ロイス				
対象	感情(pos)	感情(neg)	タイ	消費
複製体	P	N		
梶子 師走	P 尊敬	N 劣等感		
白玉 零子	P 友情	N 猜疑心		
	P	N		
	P	N		
	P	N		
	P	N		

最大財産P: 2    残り財産P:

スキル名	SL	コスト	タイミング	射程	対象	判定	制限	メモ
ワーディング	★	-	オート	視界	シーン	自動	-	
効果: 非オーヴァードのエキストラ化								
リザレクト	0	1d10	気絶時	-	自身	自動	↓100	
効果: コスト分のHPで復活								
居合い	5	5	メジャー/リアクション	-	-	-	-	
効果: 組み合わせた判定の達成値を+[LV*2]する。								
ペインエディター	5	-	常時	至近	自身	自動	-	
効果: HP最大値を+[LV*5]。侵蝕率基本値を+3								
武芸の達人	3	-	常時	至近	自身	自動	-	
効果: 《白兵》 技能の達成値+[LV*3]する。バッドステータスの暴走を受けている間は適用されない。侵蝕率基本値+4。								
ゲットダウン	1	2	リアクション	至近	自身	対決	-	
効果: 《白兵》、《射撃》 リアクションを行う。								
ハードワイヤード	5	-	常時	至近	自身	自動	-	
効果: ブラックドッグ専用アイテムからLV個選択し、常備化できる。侵蝕率基本値+4								
アタックプログラム	5	2	メジャー	武器	-	対決	-	
効果: 命中判定+[LV*2]								
バリアクラッカー	1	4	メジャー	武器	-	対決	80	
効果: ガード不能。装甲無視。1シナリオLV回								
勝利の女神	5	4	オート	視界	単体	自動	100	
効果: 対象が判定を行った場合に使用する。達成値を+[LV*3]する。1ラウンド1回								
ドクタードリトル	★							
効果:								
真相告白	★	1						
効果:								
無面目	10	3						
効果:								
効果:								
効果:								

普段は指暴力団敷地内の喫茶店でホール担当として働いている元ヤクザ。No.1やUGNからの依頼の時には「ヤクザ」の文字が埋め込まれたマスクを付けて任務に臨んでいる。尚、これは彼女の趣味ではなく、現在の主である白田の悪ふざけ。本人は文句を垂れながらも欠かさず付けているし、何なら気に入っている。後、珍妙な出で立ちであるが、指暴力団ではそこまで浮かない。OPP5。胸が貧弱なと普段から男物の服を着て男性のような立ち振る舞いをしている為、基本的に男だと思われている。

元々はヤクザたちの伝説と化していた存在、梶子師走の遺伝子から作り出されていた複製体で、剣術に特化するように調整されたデザイナーズオーヴァード。幼少期から優れた実績を出し、師走の遺した伝説の白鞘を継承してからは赤髪の異名を欲しまにしていた。18歳の頃、標的となった白玉零子（現白田零）から慕っていた師走の、本来の思惑を伝えられたことで組を裏切り白田と共に追手からの逃亡生活を送っていた。現在はUGNの指暴力団に匿われている。最近ピリヤードにご執心で、暇さえあれば他のメンバーを誘って球弾きに興じている。

全盛期はオーヴァード、非オーヴァード問わず数多の屍を築いてきた。基本的な殺し方は暗殺であり、ただの人間のふりをして標的に近づく為に、オーヴァードとしての反応を断ち消す術を持っている。かと言って、正面での斬り合いが弱いわけでもない。用心棒として腕利きで重宝されていたが、あまりにも人を斬り過ぎた代償として刀が出るのが早くなっている。斬り伏せたり、暴力に訴えるのに迷いが無い。対話をするのに諦めが早いのだ。

本人は現在、至って普通な日常を渴望していて、所謂「ネコミミの生えたラーメンが跋扈していない世界」が当たり前だと思っていた。が、ここは通常ステージではない。悪いが諦めてくれ。最近ではネコミミラーメンと会話したり、ネコパスと会話したり、猫耳ジャムをばらしらせるなど、中々順応してきている。

名古屋出向から帰った後、写真に嵌まる。嵌まり始めるとのめり込む性分であった為か、勢い余って機材関係を買ってしまい同行者である白田に部屋が窮